

下呂市小学校・中学校

適正規模に関する報告書

～未来に生きる子ども達の育ちのために～



模について、小学校では学年2～3学級、中学校では学年4～6学級を標準としています。この規模に合う学校は、市内20校中2校しかありません。文部科学省の標準は、下呂市の実態に合わないとも言えます。

下呂市教育委員会では、平成23年、有識者による下呂市小中学校適正規模検討委員会（委員長・大平橋夫岐阜聖徳学園大学教授）を設置し、下呂市の現状に合う下呂市なりの適正規模について検討をしていただきました。

この度、その報告書がまとまりましたので、報告書の骨子とその背景にある児童生徒数の将来の見通しなどについてお知らせします。なお、今後の具体的な対応については、地域住民・保護者の皆さまの意向を尊重しながら、決定していきたいと考えています。

市では平成26年3月までに、全ての学校施設の耐震化工事が完了し、施設面では一定の改善が果たされます。しかしながら、少子化を背景に、児童生徒数が大きく減少しており、市内の学校の小規模化が進んでいます。

文部科学省は、学校の適正規

【教育委員会・教育総務課】

◆報告書の骨子

- 1 小学校にあつては、1学年で1学級以上の規模が望ましい
- 2 中学校にあつては、1学年で複数の学級が編成される規模が望ましい

- ① 多人数の中で切磋琢磨し、学力向上や児童のコミュニケーション能力などの社会性を育てやすい。
- ① ほぼ全教科で、専門教科の免許を所有する教員の配置が可能となる。

- ② スポーツや合唱などの集団で取り組む教育活動が充実し、個性のさらなる伸長が図りやすい。
- ② クラス替えが可能となり、より豊かな人間関係を構築しやすい。

- ③ 学級内の男女比に極端な偏りが生じること avoid できる。
- ③ 部活動をはじめ全ての教育活動の幅広い展開が可能となり、一人一人の個性のさらなる伸長が図りやすい。

◎適正規模を検討する背景と意義

・時代の流れに対応した新たな手法を取り入れ、確かな学力、健康な身体、豊かな情操などの育成を図る必要がある、そのために適正な学校規模についての検討が急がれる。

・人口規模や地理的条件を考慮し、下呂市独自のあるべき適正規模を検討し、学校教育のさらなる充実を図る必要がある。

◎検討する視点

・現状のままの学校規模で小規模校の課題を克服し、適正な教育の充実を図ることが可能であるか。

・通学距離、通学時間が児童生徒の大きな負担となることはないか。

基本的には子どもにとって、どのような教育環境が望ましいのかという教育論を中心に委員会では検討を進めてきました。

【※内容は抜粋したものです】

小規模学校の現場調査から見えてきたもの

1 学年 1 学級に満たない小学校における現状

	メリット	デメリット
子どもの成長面	・児童が互いに責任を持ち、助け合いながら仲良く学んでいる。特に上級生が下級生の面倒をよく見ている。 ・行事などに小回りがきき臨機応変に対応できている。 ・責任感やリーダー性が育ちやすい。	・人間関係が幼児期から固定しやすい。 ・男女の人数の差が生じやすく、同学年に同性の児童がいないケースも起こっている。 ・少人数の学級、特に複式学級では論争を避ける傾向が起りやすく、コミュニケーション能力が育ちにくい。
運営面		・教員免許更新制の導入で、講師の確保困難が予測される。 ・行事の活性化が困難になり、行事選択の幅も狭くなる。 ・教職員が少なく、1人あたりの分掌校務が多いことや出張などに支障をきたし、円滑な学校運営ができなくなる。
指導面	・児童の努力、保護者の協力、教職員の努力の中で相互に親密な連携をとり、成果を上げるよう実によく教育実践がなされている。 ・教師と児童との関係も親密であり、学習面、生活面とも一人一人に目が行き届いていて、全校の児童が互いによく理解し合っている。	・1人の教員が同時に2つの学年を指導しなければならず、児童の思考過程をしっかり把握し、指導することが、極めて難しく、安定的に学習効果を維持することが難しい。 ・1学年に数名程度では、集団的な教育活動面での教育効果をあげることが難しい。 ・教職員の人数が少ないために、習熟度別指導、教科担任制の指導など、多様な指導方法をとることが困難である。 ・スポーツその他の集団活動を必要とする学習が、困難もしくは不可能となる。
保護者や地域住民の意識面	・学校が地域にあることで精神的な支えとなり、地域と学校が密接に連携を取り地域の活性化への役割を果たしている。	・保護者の中には、人数の多い学校で学ばせたいとの切実な願いのもとで、やむを得ず転居する事例があった。こうした事例は今後も起こる可能性がある。

1 学年 1 学級の中学校における現状

	メリット	デメリット
生徒の成長面	・行事などに小回りがきき、臨機応変に対応できている。また、生徒が皆の前に立って事を進める機会が多く、責任感やリーダー性が育ちやすい。	・人間関係が固定しやすく、より多くの仲間との関わりの中でたくましく学ぶことが困難となる。 ・保健体育など、男女別の教科の学びに支障が出る。 ・思春期に入る時、男女の人数の差が極端であることは、男女理解の不十分さをもたらし懸念がある。
指導面	・生徒の努力、保護者の協力、教職員の努力の中で相互に親密な連携をとり、成果を上げるよう実によく教育実践がなされている。 ・教師と生徒との関係も親密であり、学習面、生活面とも一人一人に目が行き届いていて、全校の生徒が互いによく理解し合っている。	・教職員定数から免許外担任による教科指導が生じやすく専門的な質の高い学力を身に付けることに支障が出る。 ・学習指導要領の改訂で、より専門的で高度な学習内容に変わっていく中、中規模校と比較して遜色のない指導の質を保証していくことが困難になる。
部活動面		・部活動の種類が限られ、選択肢が極めて少ない。 ・文化系の部活動を組織することが難しく、運動が苦手な生徒にとって辛い選択を迫ることになっている。 ・小学校で続けてきたクラブ活動の種目が、中学校の部活動にはない場合もあり、生徒の希望に応えられない。

上の一覧表は、検討委員会が実際に市内の小中学校を訪問し、学校現場において意見交換するなどして把握された結果を集約したものです。

次ページでは、市内小中学校別の「新1年生児童・生徒数の推移」を掲載しています。

これから小中学校へ入学することとなる「未来ある子ども達」が、どういった状況に置かれているのか、10年先の未来にわたる推移から見えてくるものを、保護者や地域の皆さんのみならず、下呂市全体で考えていく必要があります。



市内小学校別新1年生児童数の推移

【小学校・現在 13 校】

H25.5.1 現在 児童数(人)

学校名	S33	S43	S53	S63	H10	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
萩原小	148	126	149	84	83	77	89	60	71	57	47	68	54	60	81	58
宮田小	28	12	21	7	7	13	10	9	11	12	15	11	11	13	9	17
尾崎小	63	50	41	30	23	17	17	17	13	14	16	17	19	20	16	17
小坂小	131	100	72	54	28	18	21	23	21	23	18	21	21	30	18	30
下呂小	83	157	154	89	83	80	62	56	58	52	42	55	63	63	59	60
竹原小	128	58	49	30	37	37	44	30	31	34	31	28	33	20	27	17
上原小	24	39	18	22	16	5	12	8	10	5	10	8	7	4	6	8
中原小	53	33	10	13	10	10	7	9	5	8	4	3	9	4	6	5
金山小	72	47	42	36	23	20	14	16	17	10	11	16	19	20	13	21
下原小	79	42	48	28	14	19	13	16	15	14	16	9	16	13	12	8
菅田小	58	38	32	17	5	5	9	11	5	11	10	11	6	5	7	8
東第一小	88	58	30	14	16	12	12	8	9	9	5	8	17	12	6	4
馬瀬小	78	37	26	17	12	9	6	8	10	16	6	8	11	7	3	7
市全体	1,033	797	692	441	357	322	316	271	276	265	231	263	286	271	263	260

※複式学級は2学年の合計が15人以下の場合に設置。

は複式1つ は複式2つ は複式3つ

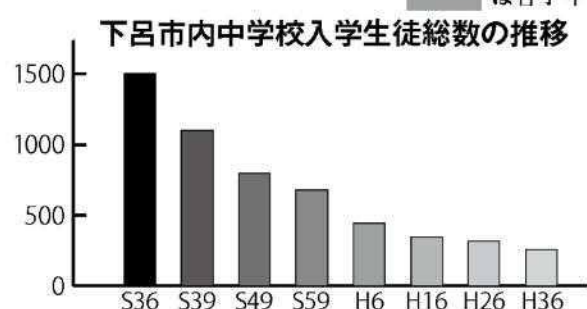
市内中学校別新1年生生徒数の推移

【中学校・現在 7 校】

H25.5.1 現在 生徒数(人)

学校名	S36	S39	S49	S59	H6	H16	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
萩原南中	189	124	117	138	85	85	78	71	82	51	69	54	45	64	50	56	77	54
萩原北中	152	115	68	72	44	33	38	33	31	29	29	27	33	32	34	37	29	38
小坂中	226	126	93	66	47	27	17	28	20	22	29	20	18	21	21	30	18	30
下呂中	343	227	231	177	111	96	62	89	76	66	69	66	56	66	79	71	71	73
竹原中	142	123	67	51	48	37	26	32	42	28	30	33	31	28	33	20	27	17
金山中	355	295	177	146	90	57	51	53	47	45	47	43	42	44	58	50	38	41
馬瀬中	97	91	46	27	20	12	13	9	6	8	8	17	6	8	11	7	3	7
市全体	1,504	1,101	799	677	445	347	285	315	304	249	281	260	231	263	286	271	263	260

は各学年1学級



※小中学校ともに現存する学校名で記載しており、児童・生徒数は過去に統合された小中学校分を含んでいます。(例：小坂小児童数=小坂小+湯屋小)

「学校は地域文化の
中心であり、子どもは
地域の宝である」

確かに学校に通う子どもの姿があることで、地域に元気が湧くことも事実です。

しかし、「未来に生きる子ども達の育ち」という大前提に対しては、地域の理解と支援が必要となります。下呂市でも以前はかなりの学校数がありました。時代の流れとともに統合され、それぞれの地域では「わがまち」という地域意識が広がってきているように思われます。

これからの子ども達は、国際・情報化社会をたくましく生き抜く力を育んでいく必要があります。私達はそれを支援していく立場で考え、子どもたちのより良い教育について、責任を持って判断していかなくてはなりません。

※今回掲載した内容は報告書から抜粋したものです。詳しくは教育委員会教育総務課、市ホームページにてご確認ください。